

用語の説明

^{うがん さがん}
右岸・左岸 — 川の上流から下流に向かって見た時の左右の区別です。

^{こうすいじき}
高水敷 — 川の水位が高くなったときに水をかぶるところをいいます。

^{ていすいろ}
低水路 — 高水敷より低い、ふだん水が流れているところをいいます。

^{いっきゅうかせん} — 日本の川は、「^{いっきゅうかせん}一級河川（国の管理する川）」と^{にきゅうかせん}二級河川（県の管理する川）」にわけられています。水害対策や水利用で重要な川を「一級」としています。日本全国で、109の川が指定されています。

^{りゅういき}
流域 — 地上に降った雨が、地表や地下を通じてひとつの川に流れ込むこととなる範囲のことです。

^{ふち}
淵 — 川が曲がりくねっているところなどにできる、流れのゆるやかな深いところをいいます。

^せ
瀬 — 川の、わりとまっすぐなところにできる浅いところで、川底の石は、流れによってよく動きます。流れは早く、白波がたちます。波の大きなところを「^{はやせ}早瀬」、波の小さなところを「^{ひらせ}平瀬」といいます。

